

「富士見市市民人材バンク」ってなに？

学びたい人、自分の力を生かしたい人、それぞれの夢を実現させるための支援をするのが「市民人材バンク」です。「市民人材バンク」へ登録して、力を生かしたいと考えている人、何かを学びたいと考えている人、支援を得て目標を達成したいと考えている人、それぞれの方に「市民人材バンク」をご紹介します。

「市民人材バンク」とは？

2002年から設立の準備が開始されました。目的は、幅広い分野における人材を発掘し、その情報を提供することにより、市民一人ひとりの多様な学習や活動を支援し、豊かな地域社会をつくるためです。生涯学習推進についての理解と熱意を持ち、持てる知識または技能を地域社会で積極的に役立てようとする人材を登録し、支援を行うのが「人材バンク」です。

どんな方が登録されているの？

以下の7つの分野で大勢の方が登録しており、実技指導者や講師、また、日々の暮らしのお手伝いなどで活躍されています。（※カッコ内：2021年7月16日時点登録件数）

- ①音楽・芸能（67件）
- ②スポーツ・レクリエーション（29件）
- ③生活・活動支援（48件）
- ④教育（5件）
- ⑤美術・工芸（29件）
- ⑥文学・教養（27件）
- ⑦イベント協力（38件）
- ※登録件数合計：243件

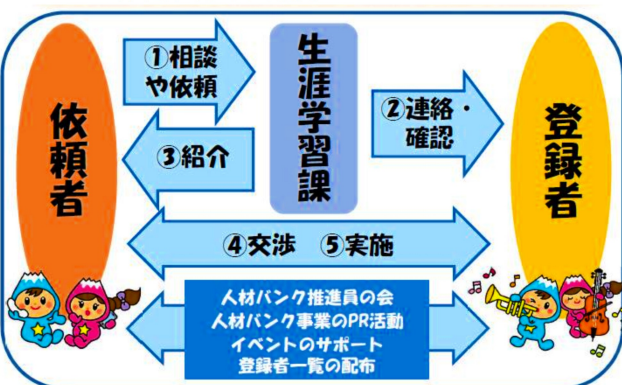


皆さんの登録内容の紹介

実技指導者や講師として	地域活動や事業イベントの協力スタッフとして	イベント等の出演者として
<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ・健康づくり・ヨガ ○料理・食育・栄養管理 ○手芸・フラワーアレンジ ○書道・俳句・詩吟・着付け ○日本史・数学講義 ○子育てアドバイス など 	<ul style="list-style-type: none"> ○イベント運営（準備・当日）のお手伝い ○壊れたおもちゃの修理 ○昔遊びの紹介 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○尺八・三味線・篠笛演奏 ○ピアノ・ハーモニカ演奏 ○フラダンス・合唱披露 ○16ミリフィルムの映写 ○パネルシアター・マジック・バルーンアート など

人材バンクの利用方法は？

ご利用手順



- ① 依頼者が、「登録者一覧」を見て生涯学習課に電話をします。
 - ② 生涯学習課が登録者に連絡し、その依頼内容が可能かどうか確認します。
 - ③ 生涯学習課は登録者の了承が得られた後、依頼者に登録者の連絡先を教えます。
 - ④ 依頼者は、登録者へ連絡を入れ、当日の打合せをします。
 - ⑤ 依頼内容の実施
 - ⑥ 活動終了後、依頼者は生涯学習課へ報告書を提出して、終了となります。
- ★登録者一覧は、ホームページや生涯学習課窓口でご覧いただけます。

登録するには？

市民人材バンク登録申込書に必要事項を記入のうえ、生涯学習課窓口へ提出してください。（様式は富士見市ホームページからダウンロードできます。）

登録・利用のお問い合わせは…

富士見市教育委員会生涯学習課 ☎049-252-7138（直通）

利用者の声

市内介護施設職員より

2時間程のおしゃべりと音楽を取り合わせた音楽祭開催時に利用しました。特に問題もなく実施することができ、参加者は、一緒に歌ったり、おしゃべりを楽しみ大いに喜んでくれました。次回の支援も依頼済みで、今後さらにこのような機会をたくさん計画していきたいと考えています。

今後も「市民人材バンク」の支援を受けていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



登録者の声①

フジミハッピーバンド
萩原 弘さん

「バンド演奏とトーク」で登録していますが、最近のコロナの影響で出番は皆無になりました。いつになったら以前のような楽しい日がやってくるのかわからない近況ですが、その日のためにも毎日自宅練習に励んでいます。私の技術レベルは恥ずかしいものですが聞いて下さる皆様との交流が何よりも私の「栄養源」になっています。

私も高齢者の一人ですが、認知症問題がよく話題になります。そんな時、人材バンクに登録し、楽しく活動させて頂けることは私にとって、大変素晴らしいことだと思っています。認知症の発症時期を遅らせることに連なれば最高だなと…。



富士見の寅さん

72歳でドラムを始め…

登録者の声②

ハッピーシュガー
佐藤 典子さん

私が人材バンクに登録したのは「富士見の寅さん」こと萩原弘さんが「ハッピーバンド」のキーボード奏者を探していると同じマンションに住んでいた（故）渡辺京子さんを通じ知ったのがきっかけでした。

そして「ハッピーバンド」の仲間入りをさせて頂く事になり、その後「ハッピーシュガー」としてキーボードの弾き語りとフルート演奏で市内のデイサービスを回らせていただき皆さんから「のりちゃん、また来てネ!」と言われるようになりました。今では私の“生き甲斐”となっています。



キーボードで弾き語り中